

少林寺拳法 学習活動支援

本時の場所：体育館 指導者：高橋 俊

(1) 目標
今日、様々な護身術や格闘技が存在する中、人格形成を目的とした少林寺拳法が各県から再び注目をあつめている。そこで、金剛理金州若松道院長からの稽古と講話を通して、心構えと技術を習得させ稽古を通して、中国の歴史・思想・文化を学ぶ意欲や態度を育てていく。

(2) 活動計画【10時間】

日 時	学 習 活 動	○教師の支援（★）
6日(土) 3校時 8日(月) 4校時 15日(月) 4校時	(1) オリエンテーション (2) 学習課題	○訪中国の話や外部講師にかけることにより、意

水墨画に挑戦しよう 学習活動3

本時の場所：第1美術室 指導者：T

(1) 目 標
中国文化の代表ともいえる水墨画について学び、実際に描いたりする芸術(文化)や中国の人々の考え方を理解しようとする態度を育てていく。

(2) 活動計画【10時間】

日 時	学 習 活 動	○教師の支援（★）
6日(土) 3校時	(1)オリエン	
8日(月) 4校時	(2)学習課題 ・自分の	
15日(月) 4校時	(3)班編成、 ・各々の ・班の大 ・学習計 のを確	
20日(土) 3校時	(4)まずは水 ・図書室 ・自分の	
26日(金) 4校時	(5)本場の水 ・陳華毅	

**インターネットを通
学習活動**

本時の場所：...

(1) 目 標
情報化社会といわれる現在、多様な情報は大切である。そこで、だれもが簡単にインターネットを活用して、情報収集能力、情報マナーで「中国を知る」ことにせまらせた。

(2) 活動計画【10時間】

日 時	学 習 活 動	○教師の支援（★）
6日(土) 3校時	(1)オリエンテーション	
8日(月) 4校時	(2)学習課題 ・各自の学習課題を決める。	
15日(月) 4校時	(3)班編成、学習計画の作成 ・班の大きな学習課題を作る。 ・学習計画を立てる。 ・学習計画を基に、具体的な計画を立てる。	

10時間目の振り返りの時間について

(生徒一人一人が参加する全員発表にすために)

<各課題の学習活動支援案の続きより>

日 時 (月)	振り返り	○話し合いの場に進むように、司会的な役目をする。
13日(月) 4校時	・小グループに分かれて、お互いに発表しあう。(知識の共有化・一般化) 例> ①中国の歴史 ②中国の生活 ③中国の音楽 ④中国語 ⑤水墨画 ⑥中華料理 ⑦インターネット ⑧チャイナドレス ⑨少林寺拳法	○話し合いの場に進むように、司会的な役目をする。 各組からの均等な人数で分けて小グループ(18人程度)を12個作る。 自分の課題の学習を通して中国について分かったことや感じたことを発表する。(1人2分程度) ↓ (形式は自由) ・感じたことを述べる。 ・できた作品を見て感想を述べる。 ・学習した内容を披露する。 ・やってきた実技を披露する。など。 ※グループで実践してきたことを個人で振り返って考えてみる。 ・本時を振り返って自己評価をする。 ○自己理解とともに他者理解にもつなげていきたい。

V 研究実践のまとめ (生徒の活動を中心に)

1 オリエンテーション

第2回目の総合的な学習のオリエンテーションとして、訪中団の鈴木恵介君や外部講師森田時夫先生の話聞いて、中国に対してのイメージをふくらませることができた。また、どんな課題選びをすればよいのか、という本時のねら

いを理解・浸透させることができた。

2 学習課題決定

前回、課題の数が多すぎたという反省を生かし、課題の数をできるだけ絞れるようにジャンルのみを提示したが、課題を決めるのにやや時間がかかった。

3 学習計画作成

課題を解決していくために、どのような計画を立てればよいのか戸惑いながらも、計画を大多数の生徒が立てることができた。学習意欲が高まってきている様子が見える。

4 事前学習

事前学習を3時間設定したため、課題によっては時間が多かったところと少なかったところがあった。次時の体験学習・現地調査に向けて、積極的に協力しながら事前学習に取り組み、課題解決の意欲が高まってきている様子が見える。

5 学習課題の追究・解決

自分たちが立てた計画に基づき、グループで協力して課題解決を図る活動が展開された。本時のねらいを理解できなかった生徒が一人もおらず、生徒一人ひとりが積極的かつ主体的に課題解決に向かって取り組んだ姿が見られた。

6 学習のまとめ

今回は発表のためのまとめではなく、学習してきた過程を通して「中国」について感じたことの発表(発表形態は自由)であった。それぞれに工夫をこらしたまとめをしていた。

7 発表会

グループの代表者が発表するのではなく、全員参加の発表会にしたいと考えた。小グループの中で、生徒一人一人が感じたことや学んだことを発表したため、ほとんどの生徒が成就感を持ち、満足することができた。